

学校運営協議会 議事録

校名	大阪府立東淀川支援学校
校長名	鈴木 克彦

開催日時	令和元年5月17日(金) 17:00~18:30
開催場所	大阪府立東淀川支援学校 校長室
出席者(委員)	田原会長、岩下委員、末浪委員、中上委員
出席者(学校)	鈴木校長、久井教頭、川村教頭、石田首席
傍聴者	1名 (保護者1名)
協議資料	平成31年度 学校経営計画
備考	

議題等(次第順)

議事「学校経営計画」に関する事項

協議内容・承認事項等(意見の概要)

本年度の学校経営計画について、以下のような質疑応答および意見、要望が出された。

新学習指導要領に関わること

(問)学校経営計画に書かれている「3つの力」について、具体的にどのようなことをするのか。  
 (校長)3つの力とは「自ら考え行動する力」「変化に対応できる力」「コミュニケーション力」である。これらは、本校の児童生徒にとって難しいことと思われるかもしれないが、昨年度、102人の教員が授業研究を通して「興味関心を持つ」「自ら積極的に関わるようになる」「見通しを持てるようになる」等を目指し、3つの力の育成を追求した。今年度も引き続き、中心となる授業を据えて研究していく。  
 (意見)3つの力は、就労先の企業が求めるものと同じである。とても大事な力だと思う。

(問)資質・能力とは何か。

(校長)新学習指導要領の「知識・技能」「思考力・判断力」「学びに向かう力」を指し、これらを育み生活の中でどう活かすのかということである。将来、今ある職の20%が無くなると言われる中で、生活に活かす学習が必要である。  
 (意見)そのような力は障がいの有無に関係なく、どの子にも必要だ。  
 (意見)支援学校においては、個々に応じた知識であり技能であると思う。「その子に応じて」が必要だ。  
 (意見)作業所では出来るようになるまで同じことを繰り返し取り組むが、学校は時間割があり、子どもによっては学習内容が理解できないまま次に進んでしまう。その結果、環境に馴染まないと言われ、不登校につながることもある。  
 (意見)就労した場合、企業では一日のうちに学校のようにいろいろなことをしない。同じことを継続して行うので、作業所の取り組みに通じるものがある。

交流学习および地域との関わりについて

(意見)障がいを持つ様々な人がいることを地域の子どもたちに知ってほしい。そのためにも交流を推進してほしい。  
 (校長)昨年度、近隣の小学生に本校の教員が障がいについて話をした。今年度も同様なことをやりたいと思う。  
 (意見)地域の小中学校から支援学校に入学した子の成長を、なかなか見られないと聞いている。残念だ。  
 (意見)学習発表会や作品展が成長を見る機会かと思うが、発表のための作品であったりして成長が感じられないことがある。成長が見えるカリキュラムで取り組んでほしい。

防災について

(意見)学校の備蓄品は少ないので、学校にいる間に災害が起きた場合を想像すると、とても不安である。  
 (意見)防災についてはエンドレスなので、どこまでやるか、何を優先するかだと思う。  
 (意見)想像力を働かせないと防災はできない。学校もそうしてほしい。今年度は思い切って進めてほしい。  
 (意見)登下校中、在校中など各ステージにわけて危機管理を考えるのが必要である。また、地震と風水害は別なので、様々な事象を想定して考えていくしかない。  
 (意見)登下校中については、同じルートで通学している子どもたち同士の、日頃の協力体制も必要かと思う。  
 (意見)地域柄、帰宅困難者や旅行者が避難してくることが想定される。この地域で行っている「帰宅困難者会議」に参加してほしい。また、近隣の高等学校の帰宅困難者避難についてのノウハウを参考にしてほしい。